

サクランボの育て方

サクランボ・・・バラ科サクラ属 原産地イラン北部とヨーロッパ西部

■品種

品種	成熟期	特徴	受粉樹
佐藤錦	6月上旬後半 ～6月中旬	糖度が高く美しく、最高の品質です	高砂 ナポレオン
ナポレオン	6月下旬 ～7月前半	果肉は硬く芳香に富み、多肉多汁の豊産性の品種	高砂
高砂	6月上旬後半 ～6月中旬	果肉は軟かく豊産性です	ナポレオン
暖地桜桃	6月上旬	暖地でも作り易い品種です	自家結実性あり

※サクランボは年平均気温が7℃以上14℃以下の所に向きます。関東以西の平野部及び始めての方、鉢植えの方は暖地桜桃がおすすめです。

■受粉



サクランボは同じ品種の花粉を受粉しても受精せず、品種の組み合わせにより相性が悪くて受精できないので注意。上記の表の品種を組み合わせましょう。

■雨よけ



サクランボは果実の成熟期が梅雨と重なるため、果実が水分を吸収しすぎ、急速に肥大し、果実が裂けてしまいます。庭植えは収穫期だけ右図のようにビニールで雨よけをするとよいでしょう。また鉢植えは成熟期は軒下に置いて雨を防ぎます。

管理方法

■剪定

サクラと同様に枝の切り口が枯れ込みやすいので、無駄な剪定は避けた方がよいです。剪定が必要な場合、太い枝は切らないで、できるだけ新しい枝の部分の部分を切ります。

■肥料

庭植えは化成肥料（10.6-8）を1～2月と収穫後にお礼肥として施し、鉢植えは12月に固型醗酵油粕を施します。

病害虫

■病気

1. 灰星病：開花前に雨が多いと発病しやすいです。
「症状」 花が淡褐色に枯れたり、果実にも感染し小さな点々が発生し、やがて白い粉をようなカビが発生します。
「対策」 【予防】 被害実を早く取り除き、被害枝は剪定した後、焼却等の処分をします。
【治療】 発生したら、トップジンM水和剤やベンレート水和剤を散布します。

■害虫

1. ウメシロカイガラムシ
幼虫は暖地では年3回発生し、寒冷地では5～6月と8月の2回程発生します。
「症状」 小枝や幹に白い小さなカイガラムシが発生し、樹液を吸うため枝枯れを起こしたり、生育が悪くなります。
「対策」 【予防】 休眠期の12～2月に石灰硫黄合剤の散布が有効です。
【駆除】 幼虫のふ化直後に、スミチオンやオルトランを散布すると有効です。
2. コスカシバ：5月中～下旬と8月下旬～9月上旬の2回、成虫が発生します。
「症状」 幹に乳白色の幼虫が入り、内部を食い荒らし、樹勢が衰え、枯れることもあります。食入部より虫の糞とともにヤニを吹き出していることがあります。
「対策」 【予防】 成虫が交尾するのを妨げる薬剤を、成虫の発生する前に塗布します。
【駆除】 被害部から出る虫の糞やヤニを見つけたら、ナイフで樹皮を少し削り、幼虫を捕殺します。あるいは5～6月に被害部にスプラサイドM水和剤を塗布します。

※容器ラベルの使用基準・作物名に「おうとう」が記載されている製品を使用して下さい。
※農薬はラベル等に記載されている使用基準に従い、適用のある作物に使用して下さい。